日蓮聖人門連だより

発　行
日蓮聖人門下連合会
東京都大田区池上1-32-15
〒146 電話(03)3751-7181

平成５年２月16日
第12号

平成十四年にお迎えする日蓮聖人開宗第七五〇年記念の佳節に向け、日蓮聖人門下各教団は総力を結集すべきである。二度と無い、この記念すべきときに、各教団の持てるエネルギーを出さずして何時の日にか、それが可能になるか、心すべきである。

（編集部）

リレー提言(2)

立教開宗750年を迎えるにあたって

日蓮聖人門下連合会常務理事
川口　善教

◀本門日蓮大聖人御舎利（光長寺蔵）

▶御舎利奉安宝塔（光長寺蔵）

宗祖を大聖人と申し上げるのは、それほど古い時代からと思っておりませんでした。私共の先師はよく日蓮大菩薩と申し上げておりましたように思うからです。

ところがわたしが住職しております西之坊は大本山光長寺の塔頭でありますが、その光長寺に伝わる宗祖の御舎利を収めた小さな塔を納める箱の蓋裏に、日蓮聖人の直弟日法上人直筆として「日蓮大聖人御舎利」と鮮明に書かれてあります。

このことから御直弟の当時既に、大聖人と申し上げていたことを知るのであります。

この大聖人が始めてお題目を唱えられたということで、私共は立教開宗と申し上げておりますが、立教ということとなりますと或いは少々問題がある言葉なのかなという気が致します。

立教は、この題目始唱の時なのか、立正安国論の御撰述の時を指すのか、宗祖の真実を述べられた観心本尊抄の御撰述の時を云うのか問題があるところと考えられるからであります。

されど、大聖人の朝日が森での題目始唱ということは、やはり開宗の宣言をなされた時ということに、異論のないところであり、この時点をとらえて日蓮大聖人開宗の時とするものであります。

本門の題目の自覚をもって口唱信行を

法華宗(本門流)では、平成三年五月の宗議会において、奉讃会の設立を決議いたしました。その六月一日より「宗祖日蓮大聖人開宗七百五十年奉讃会」が発足し、その組織としての人事も決定をみることとなりました。

この奉讃会は、宗祖日蓮大聖人の開宗の本義であるところの本門八品上行所伝本因下種の要法であります南無妙法蓮華経を口唱信行することによって、娑婆即寂光の実現を期する為に「お題目総下種運動」を展開しようとして結成されたものであります。

従って奉讃会を設ける由縁は、総ての人々にお題目を下種することを推進する為に種々の事業を行うのが目的であります。

本門八品に説かれ、上行菩薩によって伝えられたお題目を伝え伝えること、種子を下すということは、宗祖大聖人の御指南によるところのものであり、観心本尊抄に次のように述べられている

「この本門の肝心南無妙法蓮華経の五字においては、仏猶文殊薬王等にも之を付属したまわず、何に況や其の己下をや、ただ地涌千界を召して八品を説いて之を付属したもう。（中略）在世五十余年にこれ無し、八年の間ただ八品に限る（乃至）五字の内にこの珠をつつみ末代幼稚の頸に懸けさしめたもう」

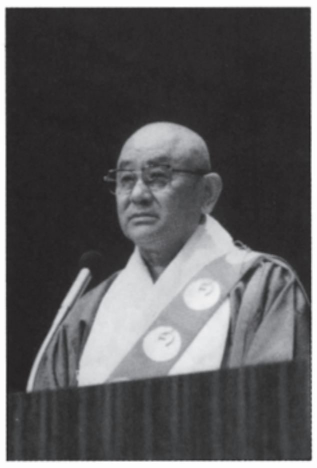
とは、南無妙法蓮華経が、本門八品に説き顕わされた経法であり種子であることを示されております。

お題目を唱えるので当宗を「題目宗」ともいうのでありますが、世間ではこの「題目」という言葉に余り良い評価をあたえておりません。むしろ芳しくないものが多いかともいえるのであります。

例えば、選挙の時に候補者が美辞麗句を並べ、立派な公約を掲げ演説をいたします。

ところがそれらは到底実現出来ないものであったり、はじめから実行するつもりもないものでさえ並べ立てて公約するとき、候補者が「お題目」ばかり唱えてと嘲笑されるが如きであります。

このような題目は文字通り言葉だけの標題であって中味の伴なわない「仮名」であり、大聖人の教旨をころ得ない形だけ真似たものであるからでありましょう。


川口善教常任理事

お題目総下種運動を提唱する

法華宗の題目は妙体倶実の「実名」であります。実名とは信心であります。信とは言葉と実行が伴うことですから、当宗の題目は信の上にたってはじめて実名であります。

名前と実体は別であるとの思考法が科学的であると一般化している今日、名体倶実の実名である「総名」の真意を弘布することは、決して容易な事ではありません。

しかし、我々にとってのお題目は、大聖人によって確立された信心口唱の下種でなければならないと思うのであります。下種とは聞・信・唱の口唱であります。唱える者にとっては、これを聞く者、そして信ずる者という仲間作りが必要です。

それ故に我々が殊更に選んだメインテーマは、「お題目総下種運動」ということであります。

その為、吾が宗が幕末期に盛んに活動し、専ら題目口唱を行とした「八品講」なる講中運動（信行者の組織）への展開が、七百五十年の大事な柱と考えます。

奉讃会の本部は、宗務院へ設置し、宗務総長が会長に就任する事によって挙宗体制を整え、統一された全宗門の運動として推進するという位置づけを致しました。

宗門の諸機関が有機的に行動出来るようにする為、各種委員会を設置し、夫々に特色ある役目分担を果たすことによって統理された型をねらいと致したのであります。

即ち宗議会を第一委員会とし、宗務所長会を第二委員会としてそれぞれの特色を生かす機関を置き、第三委員会には興隆学林、教学研究所、宗門機関誌『無上道』、青年伝道隊、教化センター、法華宗信報の宗門の重要な現場機関の代表を集めての委員会を構成する事によって、教学研究の機関、出版関係、布教に関する機関等全て動員参加なさしめるという方式を採用しての体制を整えました。

地方にあっては各宗務所単位に奉讃会を設置せしめ、各寺院教会にも各々奉讃会設置を奨励し、その運動が檀信徒の末端にまで徹底して動けるように致しております。

日蓮大聖人御尊像（日法作）

お願い
「門連だより」の継続・発展のため
各聖のご協力を切にお願いします。
本紙に対する感想・要望など，
ぜひお寄せ下さい。
「日蓮聖人門連だより」編集委員会委員一同

従地涌出

平成十四年、「立教開宗七百五十年」誠に有難い。有難い大事にあえることに今から心のうずきを感じる。

「門連だより」第十号までは七百遠忌のまとめという色あいが濃かったが、「第十一号」。いよいよ立教開宗七百五十年にむかって出発進行。喜びが湧き上がってくる。伊藤理事長より、立教開宗七百五十年を迎えるにあたってのご提言を頂いた。これから各門流よりご提言が頂ける。第十二号が待ち遠しい。

立教開宗を迎えるにあたって、まず、「原点」をとだれも思うし、自分に問いかける。この「原点」という文字を目にし耳にする時、いつも心に浮ぶことは「住職の原点」は何んであろうかということである。毎日、法務におわれている。一般社会通念の家庭生活をと思う時もある。いつも自問し、自戒する一点は「法華経の行者」として、どれだけの「行」をなしているかという事につきる。生涯教育というが、私ども僧侶は生涯修行と心にきめての毎日と思い続けたいと念じてやまない。

ところで「和して同せず」のことばがある。手前味噌的な考え方をすれば、物理的な関係では「和」がない。各々の長所や生い立ちを尊重するところから「和」が生まれ、善き関係になると思っている。

門下連合という協同体もこの事が大切と思われてならない。数でない。物理的関係でもない。各門流の伝統と格式等を尊敬し合ってこそ異体同心になれるし、これなくして大成はないと言い切る。ご聖訓を信じてやまない。

（K・Y）

シリーズ門下御本山巡り ⑪

日蓮宗本山蓮永寺

弘安三年に創建され，同六年妙法山の山号を持つ精舎として発足

日蓮宗本山蓮永寺

日持上人建立になる弘通の精舎

開山六老僧蓮華阿闍梨日持上人、永仁三年（一二九五）正月元日、単身、海外伝道の旅に出られてからこの方、七百年の時が経過した。

遡れば当山は、弘安三年（一二八〇）日持上人の郷里駿河国（静岡県）庵原郡松野に兄松野六郎左衛門の協力のもとに、その邸内に一宇を創建、同六年にはこの堂を妙法山蓮永寺とし、弘通の精舎として発足したのが当山の淵源である。

日持上人が海外に向けて出立されてから、月日の経過とともに松野の寺は無住同然となり、また戦国の世、武田氏の戦火にもまき込まれ荒廃するにおよんだ。

この霊跡の荒廃を歎かれた徳川家康の側室養珠院お万の方は、元和元年（一六一五）駿府城鎮護の道場として、城の艮（東北）の方向にあたる現在地（静岡市沓谷）へ同寺を移し、身延の寂照院日乾上人・心性院日遠上人の両上人を迎えて寺観を整えた。

なお移転後は山号を貞松山と改称し、通称みまつの蓮永寺と親しまれている。

この移転については、日乾・日遠両上人の勧めがあったからともいわれる。当山はこの縁故等をもって、両上人を当山中興と仰ぎ、また、松野氏は当山開創の大檀越、養珠夫人は中興の大檀那と仰いでいる。

なおここで、養珠夫人に下賜された後陽成天皇の「御宸筆首題」のことを紹介する。

慶長十三年（一六〇八）の常楽院日経上人の「慶長法難」のとき、日遠上人は幕府裁断を非法として、同じく強硬の態度をとり、家康の注文通り「法華経には念仏無間の証文なし」という一札を書かないばかりか、進んで浄土宗との問答を要求した。このことは天下の覇者家康の怒りをかい、ついに安倍川原で磔刑にされようとしたとき、養珠夫人が殉死の覚悟を示し、身をもって日遠上人を救われた。

この件が天聴にも達し、時の後陽成天皇は養珠夫人の不惜身命の信仰を讃えられ、首題の七字を御染筆されて養珠夫人に与えられた。

今日、当山に格護される「後陽成天皇御宸筆首題」がこれである。養珠夫人の篤信外護については、この他にも語るべきことは多々あるがこれにとどめる。

養珠夫人肖像

海外弘経の先駆 日持上人の誓願

さて開山日持上人、正応元年（一二八八）は、宗祖日蓮聖人第七回忌にあたり、侍従公日浄とともに願主となって、等身大の聖人御影の坐像を造立し、胎内には青銅製の経筒に聖人の御遺骨を納め、池上本門寺に安置された。現在、重要文化財に指定されている池上の御影像がこれである。

さらに永仁二年（一二九四）は、聖人第十三回忌の御正当、ここに来たって常に日持上人の念頭を去らなかったことは、宗祖の宿願であった本化の妙法を漢土、さらに印度へ帰すという、海外への伝道ということであった。

かくて翌三年正月朔日、僧俗門下を前に一座の法話ののち、改めて次のように申されたと『本化別頭仏祖統紀』は伝えている。

「法華経の信仰は、日本国以外には何処の国にも弘まっていない。もちろん宗祖出現以来、日もまだ浅いことであるから、日本国内とて悉くは法華経に帰したわけでないが、国内の布教は日昭・日朗両師以下、法将雲の如くであるから、それらの人々にゆだねたい。われは異域に法を弘めて宗祖の祖願にこたえ奉らん」

との発言は、さぞかし満座の人々を仰天せしめたことであったろう。門下の供を、とすがるをさとされ、後事を高弟日教にゆだね、一閻浮提広宣流布の決意をもって、単身、弘教の旅へと向かわれた。時に日持上人四十六歳、永仁三年の春、めでたき正月元日のことであった。

その後の日持上人の軌跡は不詳の点もあり、宗門ではこの出発の日をもって日持上人の命日としている。爾来七百年、日持上人第七百遠忌も指呼の間となった。当山では平成六年十一月、遠忌法要を厳修しその報恩に謝したいと期している。

日本交通公社
運輸大臣登録一般旅行業第64号

For Your Travelife JTB

軽快な店舗（テンポ）

ご存じですか、知ってトクするJTBのお店。
旅のことならJTB。暮しのあれこれもJTB。
お近くのJTBをぜひお気軽にご利用ください。

JTBのお店はフットワークが軽快です。

団体旅行やイベントのご計画はぜひお近くのJTBのお店へお気軽にご一報ください。ベテランスタッフがすぐにおうかがいします。プランニングや運営のお手伝いはJTBがとりわけ得意とする分野です。

JTBのお店は電話が軽快です。

きっぷや航空券、宿泊のお申し込み、旅のご相談、お問い合わせ…なんでも電話で承っています。お気軽にお電話をください。

（全国の旅館、ホテルのご予約がお近くのJTBに電話1本で完了。お支払いは現地で、カードでOKという便利なシステム「たびがる」もあります。）

旅をもっと楽しくする品揃えも軽快です。

- 旅をラクラク実現する旅行券の分割前払いプラン《たびたび》
- トラベル&レジャーカード《YES JTBカード》
- 旅のライブ情報ブック《JTB時刻表》&《ガイドブック》
- いい旅を支える《国内旅行総合保険》&《海外旅行傷害保険》
- サインひとつでキャッシュの働き《トラベラーズチェック》

暮しをもっと快適にする品揃えも軽快です。

JTBのお店の人気ギフトアイテム

- 旅を贈る《ギフト旅行券》、《ギフト旅館券》、《ギフトホテル券》
- 使える便利は贈る便利。デパート共通商品券《ナイスショップ》
- デリシャスなギフト、一流レストランお食事券《ナイスグルメ》
- 日本と世界の美味を選りすぐって宅配《産地直送便》

応援します、気分のいい生活

- レジャーから暮しまでカバーするJTBの保険《未来星》
- ヨーロッパからキラキラのブランド品を直輸入《ユーポート》
- 国内も海外も確かなお手伝い《JTBの引越し》

※ご紹介したJTB店舗のレパートリーは、一部支店ではお取り扱いしていないものもあります。詳しくは、お近くのJTB各支店へお問い合わせください。

JTBのお店は旅づくりが軽快です。

レジャーだろうとビジネスだろうと、ひとり旅でもグループ旅行でもハネムーンでも、国内だって海外だって、乗り物、宿、訪問地など自由自在に組み合わせて、あなたのご希望通りの旅づくりをお手伝いします。創業以来76年のノウハウをベースに、旅のプロフェッショナルが皆さまの旅ごころを力強くバックアップします。

JTBのお店は旅の品揃えが軽快です。

きっぷや宿泊などの旅のパーツに始まって、国内旅行「エース」、海外旅行「ルック」、「ハレット」、「ナヴィ」、海外からのお客様への旅「サンライズツアー」など、主要ブランドのパック旅行をドカッと取り揃えています。旅ごころが芽ぶいたら、お気軽に立ち寄って、ドッサリ揃ったパンフレットハンティングをどうぞ。

JTBのお店はインフォメーションが軽快です。

JTBのお店のパワフルなコンピュータシステムはJR、エアライン各社や、全国の旅館、ホテル3,300軒をオンライン。瞬時のご予約やご案内をしています。さらに国内300店、海外30都市を結ぶネットワークで、ホットな旅の情報を提供。一歩中へ入ると、あなたの旅ごころをガゼンときめかせる、ライブ情報ショップです。

祈

立教開宗七五〇年
奉讃円成

日蓮聖人門下連合会

日蓮宗宗務院

管長　岩間日勇
宗務総長　伊藤通明
宗務副総長　佐藤光春
綜合企画部長　岩間湛正
庶務部長　二宮將泰
財務部長　加賀美泰全

教務部長　石井隆教
護法伝道部長　石川浩徳
現代宗教研究所長　石川教張
参与　岡田法順
参与　白部健順
日蓮宗新聞社社長　菊池泰瑞

〒146　東京都大田区池上一—三二—一五
電話　〇三(三七五二)七一八一㈹
FAX　〇三(三七五二)七一八六

法華宗(本門流)宗務院

管長　大平日晋
宗務総長　川口善教
庶務部長　大塚正信
教学部長　三浦成雄
教化部長　桃井晋城
財務部長　芹澤泰謙

〒170　東京都豊島区北大塚一—二六—四
電話　〇三(三九一〇)四七五五㈹
FAX　〇三(三九一八)七九九四

顕本法華宗宗務院

管長　古瀬日宇
宗務総長　石井義堅
宗務次長　中村通義
財務部長　白井謙光
布教部長　梶井厳誠
教務部長　山本学人
社会部長　小泉隆昭
庶務部長　大塚正純
主事　山本晃道
主事　飯沢道安
主事　花沢純行

〒606　京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一一
電話　〇七五(七九一)七一七一

法華宗(陣門流)宗務院

管長　野口日桂
宗務総長　牧野琢成
総務部長　土屋善敬
教学部長　都築哲信
教化部長　金原戒雄
財務部長　江坂隆俊
宗務参事　竹内敬覚

〒170　東京都豊島区巣鴨五—三五—六
電話　〇三(三九一八)七二九〇
FAX　〇三(三五七六)〇一二一

本門佛立宗宗務本庁

講有　御牧日勤
講尊　小山日幹
講尊　梶本日斎
宗務総長　植田日朝
宗務副総長　中西日納
宗務副総長　佐藤政司
宗務本庁役員一同

〒602　京都市上京区御前通一条上ル東竪町一一〇番地
電話　〇七五(四六一)一一六六(代)
FAX　〇七五(四六四)五五九九

日蓮本宗宗務院

管長　嘉儀日有
宗務総長　財務部長　佐藤智明
総務部長　教学部長　原眞昭
法務部長　依田謙成

〒606　京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話　〇七五(七七一)三三九〇
FAX　〇七五(七七一)五九一四

法華宗(真門流)宗務庁

管長　上田日源
宗務総長　長鎌泰信
総務部長　吉田勝秀
教学部長　上嶋智岳
教化部長　小西法明
社会部長　蓑輪渓玉
財務部長　寺田完英

宗務参与　小島玄城
宗務主事　上田浩岳
宗務主事　岩崎峻暉
宗務主事　笹木研秀
宗務主事　矢放真文

〒602　京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町
電話　〇七五(四四一)五七六二
FAX　〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗宗務院

管長　中村日宣
宗務総長　吉村信尚
宗務部長　信隆允忠
財務部長　山下通雄
総務部長　藤井宏長
庶務部長　飯田信栄
教務部長　高辺誠亮
門連常任理事　木村光紹

〒602　京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
妙蓮寺
電話　〇七五(四五一)三五二七

宗教法人

国柱会

会長　田中香浦
理事長　三田道弘
副理事長　入江克郎
門連常任理事　大橋邦正
本部事務局長　田中隆一

〒132　東京都江戸川区一之江六—一九—一八
電話　〇三(三六五六)七一一一㈹
FAX　〇三(三六五六)九九八〇

京都日蓮聖人門下連合会

会長　沖日亨
副会長　福井日進
理事長　本田義遠
副理事長　赤塚高明

京門連事務局
〒602　京都市上京区小川通寺ノ内上る
本法寺前町六一七　本山　本法寺内
日蓮宗　京都府第一部　宗務所
電話〇七五（四五一）九三九〇

日本山妙法寺

首座　上野行量
〒542　大阪市中央区南船場一—三—十一
電話　〇六（二六一）三三二六
長老　塙行幸
長老　石山善邦
日印サルボダヤ交友会会誌発行編集人　今井行順
東京都千代田区九段北三—二—三
天鼓出版発行編集人
日本山妙法寺事務局　松谷被鎧
東京都渋谷区神泉八—七

祈・立教開宗750年 奉讃円成

日蓮宗総本山
身延山久遠寺
法主 岩間日勇
総務 藤井教雄
役職員一同
〒409-25 山梨県南巨摩郡身延町身延
電話 ○五五六(六二)一○一一
FAX ○五五六(六二)一○九四

日蓮宗大本山
池上本門寺
貫首 田中日淳
〒146 東京都大田区池上一―一―一
電話 ○三(三七五二)二二三一
FAX ○三(三七五二)三三五○

顕本法華宗総本山
妙満寺
貫主 古瀬日宇
総務 山本学人
執事 三坂岳應
執事 津村乗信
執事 安東靖弘
執事 山本晃道
〒606 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 ○七五(七九一)七一七一
FAX ○七五(七九一)七二六七

法華宗(陣門流)総本山
本成寺
貫首 野口日桂
執事長 真保行宣
執事 笹原壮玄
執事 西山英仁
執事 平井良光
執事 鈴木顕正
〒955 新潟県三条市西本成寺一―一―二○
電話 ○二五六(三二)○○○八

法華宗(真門流)総本山
本隆寺
貫主 上田日源
執事 小島玄城
執事 岩崎峻暉
執事 笹木研秀
執事補 矢放真文
〒602 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三○
電話 ○七五(四四一)五七六二
FAX ○七五(四四一)五六六六

本門法華宗
大本山妙蓮寺
貫首 中村日宣
執事長 松下日肆
役職員一同
〒602 京都市上京区寺之内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 ○七五(四五一)三五二七

日蓮本宗
本山要法寺
貫首 嘉儀日有
大学頭 丹治日遠
執事長 佐藤智明
執事 原眞昭
執事 依田謙成
〒606 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 ○七五(七七一)三三九○
FAX ○七五(七七一)五九一四

本門佛立宗本山
宥清寺
住職 二十世講有 水谷日尚
事務局長 信徒総代 伊藤英夫
〒602 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一○○五―一
電話 ○七五(四六三)四六二○(代)
FAX ○七五(四六三)四六五一

立教開宗 出家得度之霊地
日蓮宗大本山
清澄寺
別当 小林日芳
〒299-55 千葉県安房郡天津小湊町清澄
電話 ○四七○九(四)○五二五

日蓮宗大本山
妙顕寺
貫首 沖日亨
執事長 本山本土寺貫首 山田一光
執事 原光司
〒602 京都府京都市上京区寺ノ内堀川東入
電話 ○七五(四一四)○八○八

日蓮大聖人御霊跡
日蓮宗大本山
本圀寺
勅諚にて京都に移遷の松葉ヶ谷草庵の霊跡
〒607 京都府京都市山科区御陵大岩町六
電話 ○七五(五九三)九一九一

日蓮宗大本山
北山本門寺
貫首 片山日幹
執事長 田中慈潮
〒418-01 静岡県富士宮市北山重須
電話 ○五四四(五八)一○○四

日蓮宗大本山
法華経寺
貫首 長瀬日還
執事長 冨田義董
参与 関口観康
同 新井智清
同 植田観泰
同 広野観順
同 土田勝宏
〒272 千葉県市川市中山二―十―一
電話 ○四七三(三四)三四三三

久遠成院日親上人御霊窟
日蓮宗本山
本法寺
重文涅槃図長谷川等伯筆
名勝巴の庭本阿弥光悦作
貫首 金山寛成
〒602 京都府京都市上京区小川通寺ノ内上ル
電話 ○七五(四四一)七九九七

やくよけ祖師
日蓮宗本山 堀之内
妙法寺
山主 駒野教格
〒166 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 ○三(三三一三)六二四一
※平成五年度随身生募集中

日蓮宗本山
頂妙寺
貫首 土屋学周
参与 山田完修
同 新井智清
同 加藤通雄
執事 藤井照源
同 川合陽雄
同 二之部知孝
〒606 京都府京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六
電話 ○七五(七七一)○五六二

門連時報

京都理事会開催さる

平成四年十一月四日、法華宗本門流大本山本能寺に於て開催された。理事会開催に先立ち、宝物等を拝観させていただき、本能寺貫首和田日攝猊下導師のもと、伊藤通明理事長をはじめ参加者五十五名が法味言上をした。

記念撮影後、和田猊下から「本能寺の沿革」につき講演が行われた。

引き続き、理事会を開催し、次第に従って会議を進め、上半期事業報告、京都門連事業、地方門連活動に関する件、その他として討議報告承認を行った。又、欠員中であった、監査について、顕本法華宗・山田信正師（千葉県行伝寺住職）が推薦され、了承された。

今回の理事会では、来る立教開宗七百五十年に向けて、各門下でどのような取り組みを行っていくか、意見を交した。今後門下連合会としても取り組んでいくべき問題もあるので、門下連合会の活動についても検討していくつもりである。

常任理事会開催さる

平成五年一月十八日、日蓮宗宗務院に於て、常任理事会を開催した。特に議題は設けずに、自由に意見を出してもらいたいと、伊藤理事長より提案され、参加者十四名が意見を出し合った。

まず、門連の会議に集まる人数が年々減少してきており、身延理事会も京都理事会に比べ数が少なく、身延理事会の形態について検討してみてはどうかという意見が出され、又結成以来の会則も含め、見直しの時期に来ており、今一度門下連合会のあり方について考え、立教開宗七百五十年に向けて、活動していく事が話された。

門下連合会結成以来、今日に至るまでに、宗祖七百遠忌や結成三十周年記念事業を円成した今、やはり何か目標を見つけなければならないのではないか。

又、全門、京門という名称についても、なにか立場を決めてしまい、全門の傘下として地方門連があるという認識が存しているようで、なかなか地域に於ての結成が足ぶみ状態のようだ、そして、門連に対する理解が、時が経つにつれ変化してきており、後継者も考えていくべきである、という意見もあった。

布教誌・紙の紹介 ⑥

法華宗本門流「無上道」

◎『無上道』は平成二年八月号をもって創刊以来第五〇〇号の大金字塔を樹立し、本年正月号で第五二九号を数えるロングセラーである。本誌が創刊されたのは戦後間もない昭和二十四年一月で、《國神不敬事件の真相》を掲載し、以後〈昭和法難〉の生の声が連載された。創刊号編集後記には「戦時中、軍閥政府から弾圧された唯一の仏教宗団、赤十字運動を展開した宗門、そして御本尊と御遺文を護り抜いた宗門」と記してある。

◎四十有五年の歳月を数えた今日でもその姿勢はひとつも変ることなく、日蓮大聖人の本義を正しく伝え、しかも解り易くが編集の方針である。

◎内容については、貫首猊下はじめ宗内僧侶の歳時法話、学林教員による教義の分り易い手引きはもちろんのこと、宗門外からの玉稿も掲載し、例えば京都府立大学教授・藤井学先生の「本能寺と信長」は長期連載となっている。ほかに宗宝の紹介、読者からの俳句・川柳・短歌等も掲載されている。またテーマにそった挿絵・まんが、さらには全国に配置された通信員より送稿されてくる各地のニュースを速やかに伝えるなど六十四ページ建の誌面は盛りだくさん。

◎開宗七百五十年の宗門テーマである「お題目総下種運動」を展開するため、檀信徒に対する文書布教部門としての大きな役割を果たしている。その一環として本年四月号よりは、「下種（げしゅ）」をテーマに長期連載を企画し、日蓮大聖人法華宗開宗の正義を追求。乞う御期待。発行二万部、年間購読料二千円。

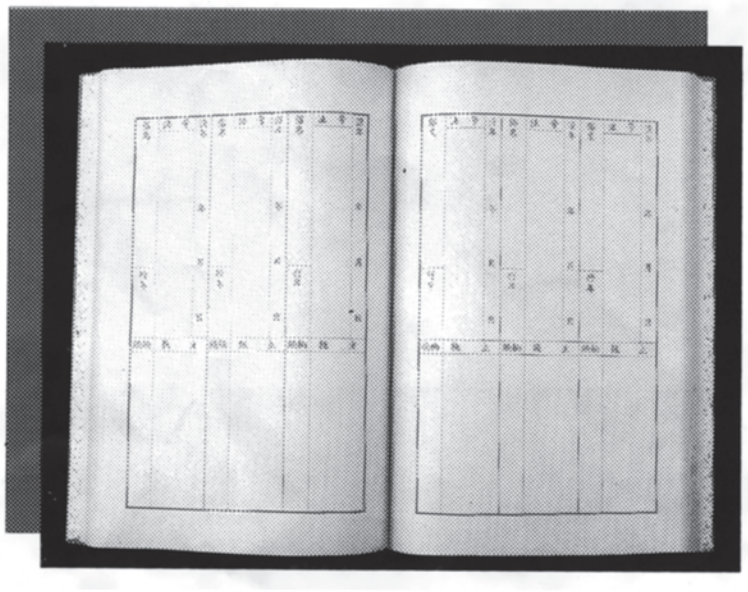
◎ほかに、『法華宗信報』（B5版四ページ、季刊紙、発行六万部、無料）、『心花ひらく』（教化リーフレット、年三回、発行三万部、一部三十円）など、宗門の文書布教は充実している。

好評発売中

ご寺院用過去帖

○表紙は和綴じで、豪華な緞子（どんす）使用。
○中の用紙は楮（こうぞ）和紙でペン、筆どちらも書き易くなっています。
○百枚、二百頁で一頁に三霊かけます。

定価　一冊　六五〇〇円
A—四版　二〇〇頁



※ご寺院の慶弔の記念用品として最適です。
是非ご利用下さい。

お申し込みは　日蓮宗新聞社　電話03-3755-5271　FAX03-3753-7028
〒146 東京都大田区池上6—19—1

各派・教団 短信

日蓮本宗

◆平成6年（一九九四）5月8日は本山要法寺御開山日尊上人の第六百五十遠忌御正当の日にあたるので、その御正当の日に御遠忌法要を厳修することになっている。

また御遠忌事業として境内・境域整備を推進しており、第一期事業として、本堂・開山堂の大屋根の葺替え等を含む全面大修復を、全門末の檀信徒並びに有縁の方々のお力をいただいて、約五億円の巨費を投じて平成元年秋完工した。

境内・境域整備の第二期事業として、客殿・大書院・対面所・庫裏・方丈等を全面的に改築することとなり、山内既存の建物との調和が、全般的に均整のとれたもので、かつ機能的にも充たされたものであることが望まれる建物を完工させ、此等の建物を後世に残すことで報恩の誠を捧げるべく事業を鋭意推進中。

◆第二教区古城山・本成寺（大阪府箕面市・住職原光正師）では、本堂屋根の葺替えと庫裏の全面改築が完工し、平成4年12月6日（日）の吉日に、管長・本山要法寺貫首日有猊下御親修のもとに、教区内門中各寺院住職、法類寺院住職の参列と、多くの檀信徒並びに有縁の各位の参拝を得て落慶法要が奉修された。

◆同教区広布山・正福寺（大阪市淀川区三国本町・住職松本源成師）では、本堂・庫裏の老朽化に伴い、かねてからの新営工事がこのほど完工した。内陣全般の荘厳は、旧に比して明るくなり、また外陣も椅子席が設けられるなど、見違えるまでに立派なものになった。

去年11月22日（日）御大会式法要に兼ねて完工式が奉修され、落慶法要は山門及び塀の工事完了後の、本年4月11日（日）に管長・本山要法寺貫首日有猊下御親修のもとに厳修された。

◆日蓮本宗・本山要法寺を紹介する小冊子（私たちの『要法寺』—教えとあゆみ—）が、昭和46年発行の旧版を一新して、このたび写真をすべてカラー版にして、去年10月印刷発行された。

内容は日蓮本宗の教え、御開山日尊上人、要法寺の歴史、現代生活と信仰、付・山内の建造物等となっており、旧に比して読みやすいものとなった。

法華宗真門流

◆去る七月二十二、二十三日の両日臨時宗会が、総本山本隆寺に於いて開催、宗務総長に長鎌泰信師が選出され就任された。直ちに内局人事が発表され満場一致で決定した。

宗務総長　長鎌泰信師
総務部長　吉田勝秀師
教学部長　上嶋智岳師
教化部長　小西法明師
社会部長　養輪渓玉師
財務部長　寺田完英師
宗務参与　小島玄城師

なお、内局人事に伴い次の通り、選出された。

特選宗会議員　木村完祥師
（着任平成四年十月二十日）
宗会副議長　辻本寛孝師
（着任平成四年十二月四日）

◆東山未生流華展開催　平成四年十一月七、八日の両日、総本山本隆寺にて、家元総本山の華道東山未生流（総裁・上田日源猊下、華務長・今枝幹詔氏）の華展を開催。

◆新年祝賀のため皇居へ参内　平成五年一月十一日、午後、管長上田日源猊下・宗務総長長鎌師・総務部長吉田師が新年祝賀のため、宮殿北車寄より参内記帳、天皇御一家のご安泰を祈り申し上げた。（吉田勝秀）

法華宗陣門流

◆総本山本成寺　年中行事
一月一日〜三月年頭祈願会　一月十一日聖教開き　一月二十一日朗師会
二月三日節分会　三月十五日御涅槃会　春分の日前後七日春彼岸会
四月二十八日立教開宗会　五月八日釈尊降誕会　五月十二日伊豆法難会　五月下旬祠堂大法要
五月十八日鬼子母神大祭　六月二十一日陣師講
七月一日弁天講　八月一日盆参施餓鬼法要　八月十三日〜十六日盂蘭盆会　八月二十七日山門祈禱会　九月一日宝物風入　九月十二日龍口法難会　秋分の日前後七日秋彼岸会
十月十日佐渡法難会　十月十二日御逮夜　十月十三日御会式　十一月十一日小松原法難会　十二月十五日番神祭　十二月二十日印師会　十二月二十四日大師講　十二月三十一日年末祈願会・除夜の鐘

◆総本山本成寺記念事業始まる。

山門（朱塗りのため赤門とも称す。当山の正面より見て右持国天王、左毘沙門天王、夫々東北を守る神、楼上に一切経を祀り中央釈尊安置す。その前に傅大士の像あり。三十一代日隨師の時、二十八代日修師の願を受けて完成）

水門（竜の彫刻。火の時、水を吹くとのこと）

黒門・大鼓門（裏門と称す。上杉謙信三代の祖景虎の大番頭三条領主山吉定明の屋敷門にて馬乗りのまま通れる高さあり。大炊助定明より寄進される。六百年前の作）

平成九年、開創七百年に向けて諸堂の改修等が着々と進行されている。

日本山妙法寺

◆平成4年元旦　祝禱会。皇居御祈念。8・9両日恩師行勝院日達上人第八回忌法要厳修（熱海道場）。9日　印度ワルダ宝塔仏舎利奉安式。15日　印度ボンベイ宗教合同平和祈念行進。

◆2月12日東京→焼津平和行進出発。15日ネパールポカラ仏舎利塔起工式。同日　パナマ→ワシントン諸宗教平和巡礼発進。2月25日熱海道場及び各地にて行阿院日蘇大法尼追孝法要厳修。同日ランカ国仏足山→国内平和行進出発。

◆4月5日成田仏舎利塔起工式。4月19日静岡掛川道場開堂式。4月28日清澄立宗会参加。広島長崎平和行脚発進。

◆5月3日渋谷駅前にてPKO法案反対の御祈念。

◆6月28日欧州ウイーン道場開堂供養。

◆7月1日ドイツ国ユーリッヒ玄題宝塔開眼式。7月12日イタリヤシシリー島コミソ仏舎利塔起工式。

◆8月6日広島及び9日長崎向け平和行脚終了。

◆9月27日名古屋道場開堂式

◆10月10日パナマ→ワシントン平和合同巡礼到着終了。10月14日沖縄平和祈念行脚出発。

◆11月1日印度ダージリン仏舎利塔落慶大法要。

◆12月1日→8日全国一斉断食御祈念

（石山善邦）

本門佛立宗

◆平成4年12月15日、大阪円妙寺住職・御牧日勤上人が、佛立第21世講有・本山宥清寺第53世住職として全宗門より推戴され、晋位晋山式が厳粛に営まれた。

◆本宗教学の権威・大阪本成寺の権大僧正・泉日恒上人は、去る平成4年11月28日、遷化された。佛立入門・本門佛立宗概論・泉日恒著作集全11巻等数多くの著作を遺された碩学の師。

◆12月14日、第139回臨時宗会が開かれた。

（深澤泉奥）

本門法華宗

◆昨年9月28・29日の二日間第65回教学講習会が大本山妙蓮寺に於いて行なわれ、学院各教授及び立正大学北川前肇教授による講義がなされた。

なお、毎回に及ぶ北川教授の講義をまとめた「講述録」が学院より出版されている。

◆昨年11月18日より20日の三日間宗務院、学院、大本山妙蓮寺、合同主催による平成4年度の地方研修会が静岡県地区にて開催された。

全国から集まった講習生は、地元各寺院を参拝後、講習会場にて教学研修に励み三日目には箱根にて懇親を深め異体同心を誓い合い有意義な研修旅行であった。

◆2月24日、奉行委員会が開催された。来年11月に大本山妙蓮寺開創七百年を迎えるにあたり、充実した意義ある記念法要が厳修できるよう各種の企画が立案、討議された。

（持地光学）

法華宗本門流

◆去る十一月二十七日、大本山本興寺において第六回法華宗教学研究発表大会を開催。今回は法華宗教学研究所創立三十周年記念大会と併催され、宗内からは大平宏龍学林教授による「法華教学管見—まことの一念三千—」、宗外からは北川前肇立正大学教授の「日蓮聖人教学の主体化の問題」と題する記念講演がなされ、満堂の聴衆を魅了した。

◆任期満了に伴う宗会議員選挙の結果、左の十八名が当選し四月一日付をもって就任する。

渡辺俊岳（北海道・本因寺）、山火泰崇（秋田・寂光院）、福田義弘（千葉・本妙寺）、後藤孝継（千葉・多門寺）、福島泰樹（東京・法昌寺）、冨田学玄（横浜・保土ケ谷教会）、石田智清（沼津・東之坊）、片山郁朗（伊東・安立寺）、江頭正山（武生・久成寺）、三木智行（三重・本門寺）、赤田泰宏（京都・源妙院）、古田日穩（大阪・岡松寺）、菅原隆岳（吹田・法華寺）、藤村隆秀（神戸・本光院）、松井本正（淡路・最明寺）、菊地日成（岡山・松壽寺）、三浦隆雄（高松・本寺）、岡村祥光（北九州・本光寺）。

（矢吹慈英）

日蓮宗

◆平成4年8月30日、ハワイ日蓮宗別院に於て、岩間日勇管長導師のもと「ハワイ開教九十周年記念管長猊下御親教法要」を厳修した。日本より約二百人の参拝者を募り、ハワイの信徒約百人を合せ、ハワイ開教の先師の偉業を讃え、移民の方の労苦を忍び、戦死者の霊を供養した。

◆平成4年10月24・25・26日の三日間、比叡山延暦寺に於て、「日蓮聖人比叡山御遊学七五〇記念法要」を延暦寺大講堂及び横川定光院に於て厳修した。当日は、天台座主山田恵諦猊下をはじめ、延暦寺要職各聖の参列のもと、全国の日蓮宗寺院・檀信徒も参加し、盛大且つ厳粛に挙行した。

国柱会

◆各地方連合局で御修行を学ぶ講習会。◆毎月、国柱会本部で「法華経を学ぶ集い」。◆刷新実行委員会で全国支局巡回中。◆平成4年8月、身延ほか各地で少年少女夏期学校。◆8月13〜15日、全国若人の集い広島大会。8月14〜15日、靖国神社で『昭和天皇の御製』の頒布活動（12万部達成）。◆9月13日、お茶の水スクエアで「宮沢賢治60回忌記念のつどい」大橋冨士子講師、大谷大学西田良子教授が講演。◆9月、『日蓮主義研究』16号発刊、「日蓮聖人の折伏主義の意義」田中香浦、「国柱会信行員・宮沢賢治」大橋冨士子ほか（定価一〇〇〇円）。◆10月12日、恒例の池上本門寺における屋外宣伝。◆10月24日、台東区民会館で「真世界の集い」講演会。◆11月3日、近畿地方連合局にて二百余名参集し桃山御陵特別参拝。◆11月14〜15日、本部で定例協議員会、任期満了に伴う会長推戴の件は田中香浦会長が再任、三田道弘理事長以下新役員、田中隆一本部事務局長以下、新体制で発足。◆11月16〜17日、恩師田中智学先生第54回忌報恩大会。◆11月22〜23日、第28回身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団、御門下を代表し田中香浦団長以下、唱題ご給仕。

（秋場善彌）

顕本法華宗

◆僧員研修会開催、11月26日は関西地区、27日は関東地区を中心に開催された。いずれも講師は布教総監秋山事成師、教学研究所長窪田哲城師の両師により「医療・尊厳死について……今を生きる」をテーマに講義が行われた。

◆海外布教道場顕本寺移転落慶

去る12月6日、ブラジル・サンパウロに顕本寺が完成し、管長古瀬日宇猊下、宗務総長石井義堅師他多数が渡伯し、盛大な落慶法要を厳修した。参詣檀信徒は堂の内外に満ちあふれ法要に引き続き、主管の交替式が行われ、前任山本学人師より後任鍋田浄月師に法灯が継承された。

顕本寺は約15年前、開基である永田日功師の正法探求に端を発し、現管長古瀬日宇猊下の指導と、宗門本山の絶大なる協力により着々と信徒を増やし、88年に道場建設に着手しその布教拠点としたが、その後さらに交通至便の現在地（サンパウロ市の中心に近いサウデ地区）に進出移転し今般開堂落慶となった。

新主管鍋田師は、二か国語に堪能な二世教師として、師父故永田師の強い信仰を受け継ぎ、現地信徒からも深く慕われ、新顕本寺の興隆発展が大きく期待されている。

（秋葉敬真）

日蓮聖人門下連合会

●目的
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。
1、祖廟護持の組織強化
2、教育事業の提携
3、布教の連合強化
4、懇談会・研究会・講演会等の開催
5、各種出版物の刊行
6、海外布教の提携及び交流
7、対外的な各種の運動
8、その他

●加盟団体
日蓮宗　法華宗本門流
顕本法華宗　法華宗陣門流
本門佛立宗　日蓮本宗
法華宗真門流　本門法華宗
国柱会　日本山妙法寺
京都門下連合会

るつうぶん るつうぶん（流通文）

＊第十二号発行にあたり、御協力をいただいた各聖には、御礼申し上げます。又、前号より一面に各門下の総長、会長に立教開宗七五〇年に対するコメントを掲載させていただいております。こちらの勝手な編集企画で御迷惑でしょうが、御力添をいただき、門下連合会として、来る西暦二千二年の立教開宗七五〇年に何か形を残したいものです。

＊今回第十二号発刊が大変遅くなり各門下の方々に御迷惑、御心配をおかけ致しました事紙面を借りましてお詫び申し上げます。

＊次回第十三号よりは、新鮮な記事を早くお手元に届くよう努力致します。

「門連だより」の火を消す事なく新たな企画を出し、刊行して行きます。ご期待下さい。

（新）